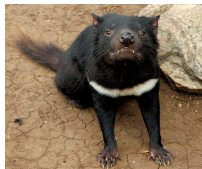




# 学校だより 青い鳥

平成28年度10月号  
さいたま市立上落合小学校  
平成28年10月1日作成

さいたま市中央区上落合4-14-24 TEL 852-5381  
<http://kamiochiai-e.saitama-city.ed.jp/> E-mail:kamiochiai-e@saitama-city.ed.jp



## 進化応答

校長 藤澤 太郎

9月21日には、市長・教育長をはじめ歴代校長、地元議員・自治会の方々などご来賓、また、後援会や保護者そして大勢の地域の方々が集い、子どもを中心として、盛大に90周年式典を開催することができました。特に実行委員会、後援会・PTAの皆様には、構想から数年の期間ご準備をいただき、素晴らしい行事とすることができました。ありがとうございます。子どもたちが大喜びであったことをお伝えいたします。あと10年経つと、今度は100周年ということになります。きっと、本校は地域に支えられ相当の進化を遂げていると勝手に想像しています。

進化と言えば、先ごろ、オーストラリアのタスマニア島にのみ生息する、犬ぐらいの大きさの夜行性の肉食有袋類であるタスマニアデビルについて、絶滅の危機から脱して、もう大丈夫というところまで来た、という報道がありました。遠くに住んでいる我々は、「ふうん、そんなことか」ぐらいの話題ですが、絶滅の危機を脱した理由に驚愕しました。それは、ほんの20年の間に7個の遺伝子に適応進化が起きて、「もうだいじょうぶだ！」となったからです。危機の原因は悪性腫瘍であった訳ですが、7個の遺伝子が進化して、免疫力やがんへの抵抗力を獲得したことになります。このような劇的な進化は、考えられないことで、何百年かかってようやく…というのが一般的な感覚なのだと思います。不思議ですね。

これは、動物の話なのですが、我々人間はどうなのかと単純に思いました。環境や病気に対して、何か自らが進化をして「もうだいじょうぶだ！」となった事例があるのでしょうか？様々な学問を駆使して対策をとっているだけなのでしょう？現実的には、環境にしても病気にしても、この100年を見渡してみても、そんなに前進しているようには見えないような気がしています。

しかし、進化の対象を「人間が生きていくためには」と考えると、少し様子が変わってきます。社会的な現象・事象への考え方は足早に変化していきませんが、そのことも含め、人間は様々な課題にシなやかに対応していますし、健康で文化的な生活を送るために、様々な環境が工夫され、言ってみれば環境が人間向けに進化しているとすることができます。タスマニアデビルの場合、自らの遺伝子が進化して「だいじょうぶだ！」となったことから、この辺が自然との差異なのでしょう。

さて、タスマニアデビルは、ほんの4～6世代の間に、この大きな課題を克服してしまいました。こうした自然界の小動物の健気な姿を見ていると、これから何十年も生きていく子どもたちには、様々なことに期待をしてしまいます。子どもが、なりたい自分になるときに、様々な課題は初めから予想されることです。にもかかわらず、その時の環境（社会）を見て、精神的な成長も手伝って、常に新しい自分として未来を考える力が、成長期の子どもには確かにあると感じています。子どもの柔軟性とか可塑性とか言ってしまうえばそれきりですが、これが「進化」ということだと思っています。

秋・冬に向け、今度はだんだんと日が短くなっていくようです。各学年の遠足・社会科見学など大きな行事も予定されています。充実した楽しい秋を過ごせるよう願っています。

ところで、タスマニアタイガーは早々に絶滅してしまったようです！？デビルは悪性細胞に対して、種として（遺伝子レベルで）応答した訳ですが、タイガーは絶滅の原因が乱獲でした。とすると、これから未来を創造できる第一人者は人間ということになりますね。その責任において、何に対して「応答」していくかが大切なところですね。

## 学校教育目標

あかるく

なかよく

たくましく